

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070100296		
法人名	社会福祉法人 浩和会		
事業所名(ユニット名)	竹の里園 グループホーム		
所在地	和歌山市明王寺3番地1		
自己評価作成日	令和5年11月11日	評価結果市町村受理日	令和6年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和5年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季の郷公園に隣接した自然豊かな環境の下四季折々の行事を取り入れながらゆったりと生活して頂いており、併設の診療所や特養の看護師との連携が出来ている。利用者の皆様には長く御自分の力で立位や歩行を行って頂ける様車椅子は移手段と捉え、日中に車椅子に着座したまま過ごして貰ってはいない。そしてコロナに感染した後に歩行や立位が行い難くなの方々がいたが、諦めず支援を継続した結果、現在では感染前の状態に回復しADLを維持出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な山の麓に位置し、近くには四季の郷公園もあり、季節の変化を十分に感じられる。法人で取り組んでいるサロンは、月1回開催され災害対策や特殊詐欺対応等、生活に密着したテーマで地域に発信されている。毎日の食事は、職員が準備することで、その日の利用者の意向を確認し、メニューを決めている。外国人職員の手料理も味わえ、食のバリエーションも広がり、また、調理師がおせち料理を振る舞い、食の楽しみにもつながっている。入浴プラス足浴が日課となり、清潔保持に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“笑顔で安らぎの暮らし 竹の里園・グループホーム”との理念を心掛け、玄関とスタッフルームに掲示し管理者と職員は笑顔で暮らして頂けるよう支援している。	2年前の本評価をきっかけに、事業所理念を見直した。日々のケアで気になる言動があった場合は、その都度、又は、グループホーム会議を通じ理念を振り返るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	美化活動の一環として随時竹の里周辺の草引き(草刈り)等を行っており、日常的な交流を行っている。	消防署の協力で起震車体験を行ったり、警察署からは特殊詐欺の説明会を開催してもらうなど、毎月地域向けのサロンを開催している。法人での取り組みであるが、事業所職員も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年の5月にコロナ感染が5類に移行したと同時に当法人の施設を提供し、サロン活動を再開し交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年4月に運営推進会議を再開する事ができた。その後の会議時にはコロナ感染の発生・経過状況を報告及び話し合いが出来、その後のサービス向上に活かしている。	コロナ5類に移行後、2カ月に1度開催している。家族参加に配慮し、土曜日の夕方に開催し、家族の意見を取り入れている。トラブルの報告を行ったことで様々な意見が出され、その意見を参考に業務改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは電話を通じて、また運営推進会議にて包括支援センターの職員より情報を得ている。	コロナ発生時は、保健所にも報告を行い助言指導を受けている。緊急対応が必要な利用者について、地域包括支援センターから相談があり、早急に受け入れることができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には施錠を行わないケアに取り組んでいる。が清潔保持の観点から“ツナギ服”の着用が必要な利用者がある。	家族の同意を得て、ツナギ服の着用を行っている。法人研修に参加し、身体拘束の理解に努めている。	身体拘束廃止に向けての取り組みを、更に積極的に行うことで、拘束が解除できることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の人権擁護・虐待防止検討委員会に委員が出席し、知識を深め他の職員と共有している。また虐待についてのアンケートを実施するなどして虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見制度を利用していた利用者が居た為、制度についての知識はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・改定の際には御家族に十分な説明を行い理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の様子報告の“お便り”に対してや電話連絡をした際等に忌憚のない意見を頂く事があり、支援に反映させている。	事業所内カウンターに意見書箱を設置している。年3～4回の頻度で家族に向けてお便りを発送している。現金支払いを通じ家族が来館することで、利用者との面会や職員との意見交換の場としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や毎朝・夕の申し送り時に、そして業務中にも随時意見を聞く事を設け反映させている。	コロナも5類に移行したため、職員の意見を基に秋祭りを開催し、利用者の笑顔もたくさん見られた。その他、職員の意見は、日々のケアやグループホーム会議を通じ運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を取り入れ職員の向上心を育成している。また安全衛生委員会を中心に職員のストレスチェックや腰痛アンケートを行い、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時外部の研修参加を勧めたり、法人内の研修を受ける機会を確保する為開催時間を2部制としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所へ相互訪問を行っており、サービスの質・向上に反映できる取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームに入所する際には居宅介護支援事業所(ケアマネ)、利用のあるサービス業(ディなど)、そして御家族より困り事、不安、要望等を聞き関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族との面談で困り事・不安・要望等を丁寧に聞き、入所後のケアに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と御家族にとってグループホームでの生活が最適であるかを御家族や担当ケアマネとも相談し決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛り付け・お茶を入れる・おしぼりの準備・洗濯物干しとたたみ等毎日の一役を通し、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と常に連絡を取り合い様子を報告している。また来園された際には出来るだけ面会して頂けるよう勤めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所している利用者は居住年数も長くなっており、馴染みの人や場所との関係を継続する事が難しくなっているが、御家族の協力も得て支援に努めている。	利用者の希望に応じ、行きつけの美容院に送迎したり、近くの四季の郷公園に桜の花見に行くようにし、馴染みの場所との関係性を保てるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	着座する椅子は好きな時に好きな場所に座って頂き、一人ひとりが孤立せぬよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所されたり特養に入所された方について、転入先の職員と情報を共有したり御家族とも必要に応じたフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向を伺うことは難しく、利用者の様子を見たり接した際に感じた事を職員間で共有し思いや意向の把握に努めている。	入所前に本人の意向を確認し、入所中も適宜意向を確認している。認知症の進行もありはっきりと意向を伝えられない場合でも、しぐさや日々の生活上から意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人及び御家族及び入所以前に関わった事業所より情報収集し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	独自の一覧表に1日の過ごし方を記入し職員が支援する際に活用し、申し送り時の連絡・報告で現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や職員で随時話し合った課題やケアのあり方を関係者と話し合い計画に反映している。	日々のケアや診療時の医師の意見、看護師の意見を参考に、課題と解決方法を検討し、3～6か月を基準に計画書を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にモニタリングを行い日中・夜間に分けた介護記録を作成し職員間で情報共有しながら日々支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時併設の事業所と情報交換を行い、利用者が活用できる事柄を生活の中に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響が長引き、地域の方々の交流が思うように支援できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後にかかりつけ医を変える方が多く、併設されている診療所医師により常に健康管理して貰っている。	入所時点で、事業所の提携する診療所に変更する利用者が大半である。外部通院の必要な場合は、家族又は事業所で対応するようにしている。訪問歯科診療も受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設された特養の看護職員に利用者の体調等を随時報告・相談し適切な助言や指示を受ける事ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療病院契約を締結しているので御家族の協力を得てスムーズに入院の支援が出来ている。また退院時には御家族や医療機関等と情報を共有し連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについてグループホーム入所時には説明しており、内容を理解して貰っている。また御本人の状態をみて随時話し合っ方針を共有し関係者と共に支援を行っている。	以前は、併設の特養に入所する利用者もいたが、グループホームで看取りケアは行っている。病状変化時は、法人の看護師が対応している。急変時も、医師に連絡できる体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体での研修に出席し、また外部の講習会へも参加し事故発生に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホームで定期的に年2回避難訓練を行っている。そして事業継続計画(BCP)への取り組みにおいて職員の意識が変ってきており、また地域との協力体制も出来ている。	法人の玄関に蓄電池が備えられ、屋外には発電機が設置されている。食料や水分、感染予防用の備品は事業所内に備えられている。年2回避難訓練も実施し、夜間の職員数が少ない場面も設定し、取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し“ちゃん”付等を行わず、誇りを損なわない言葉掛けを行っている。また職員もお互い注意し合うようにしている。	個室ドアの窓はガラスになっているが、カーテンで中が見えないように工夫されている。内側から施錠できるようにはなっていない。法人内で接遇研修を実施されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物や着たい服等を問い掛けて、出来るだけ自己決定して頂けるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿った支援をしたいと努めているが、認知症の進行や加齢で実際に一人一人のペースに合わせる事が年々難しくなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問美容師による理美容を利用している。重ね着や同じ衣類の着用にならぬよう、職員がアドバイス等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の高齢化及び認知症の進行に伴い、職員と一緒に準備や片付けを行う事が困難になっている。	食事形状や食事嗜好は、毎食前に確認し変更するようにしている。誕生日は、本人に希望を聞くようにしている。正月にはおせち料理が用意され、見て食べて楽しむ機会につながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	随時食事摂取の様子(動作・量・嚥下等)を見守り、状態や力・習慣に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後の紅茶嗽と就寝前の義歯洗浄を励行しており、朝食・夕食の歯磨き時には職員も付き添っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	随時排泄チェック表に記入し一人一人の排泄パターンを把握している。排泄の意思表示を見逃さず意思表示出来ない方も含めトイレ誘導を積極的に支援している。	日中は、トイレ誘導をこまめに行うようになっている。自然排便は少なく、水分摂取と薬でコントロールしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に野菜を多く使用するよう心掛けたり、好きな飲み物や補水液も提供している。また個々に応じて便秘薬も臨機応変に服用頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本各日(週3回)入浴して頂いている。入浴を拒む時には無理強いせず、時間を空けたり翌日の入浴へ等と繋げている。	週3回の入浴とは別の日に足浴を行い、清潔に努めることで白癬の解消にもつながっている。ゆず湯で季節感を味わうようにし、清拭時は沐浴剤を使用し保湿に努めたりしている。	一般浴で入浴できない利用者は清拭対応であるが、終末期の利用者も受け入れているため、同一法人の協力も得て、特殊機械浴等での入浴ができるよう期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人自由にホールの椅子やソファで寛いで頂いている。また午睡を勧めたり状況に応じ随時臥床して頂ける様支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎の投薬一覧表を作成しており、職員はいつでもそれを見る事が出来る。服用する薬の袋に日付・氏名・時を記入管理し服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物たたみ・お茶入れ・おしぼりの準備等、出来る方には行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣の四季の郷公園へドライブし短時間でも外を歩いたり、またグループホームの周りに出て外気浴を行い気分転換が図れるよう取り組んでいる。	歩行状態悪化や体力低下に伴い、事業所玄関まで行くことが大変な利用者が多く、そのため玄関先で外気浴を行うようになっている。花見等をきっかけにして、外出の促しを行うようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ではお金の所持を希望する利用者はおらず、御家族より「持たせてやって欲しい」等の希望は聞かれない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「家に電話したい」等の希望がある時には、電話を掛ける支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間が広く利用者の方々には快適な住空間を提供出来ている。また壁面には手作りの壁飾りで季節感を取り入れている。	事業所の共有空間はかなり広く、ゆったりと過ごせるようになっている。居住空間の真ん中に天窗があり、適度な遮光が保たれている。山に囲まれ静かな環境で、事業所内には季節を感じられるような作品も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングホールがあり座席を決めてはいるが、利用者の思いで好きな所に着座し談笑して頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には御家族とも相談し思入れのある物・使い慣れた物等を持って来て頂いており、快適に過ごして頂けるようにしている。	ベッドは事業所で用意されていて、床での就寝希望者があれば対応もできる。クローゼットもあり自宅で使用していた馴染みの生活用品も持ち込めて、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干しは室内で行って頂き職員が外に干している。また食事時使用のオシボリ準備も3~4人の利用者に行って頂いている。		